SPF
グローバル・ブックス

日・米・ロ 新時代へのシナリオ

「北方領土」ジレンマからの脱出

木村汎
グラハム・T・アリソン
コンスタンチン・O・サルキソフ
著

ダイヤモンド社

SPF
グローバル・ブックス
日・米・ロ 新時代へのシナリオ
「北方領土」ジレンマからの脱出
木村汎
グラハム・T・アリソン
コンスタンチン・O・サルキソフ
著
ダイヤモンド社
170339

日・ロ関係の明日をひもとく。
そして米国の立場は!

ダイヤモンド社　2200円(本体2136円)

序文

このプロジェクトの趣旨と特徴

本報告書（本書のもととなったレポート）は、日本、米国、ロシアの三か国間における新しい関係の形成を目指し、これら三か国の政府首脳に提出されることを一つの目的として、準備された。そして、実際、一九九二年九月中旬に予定されていたエリツィン大統領の東京訪問が行なわれる約一か月前の時期である一九九二年八月初めに、宮沢喜一首相、エリツィン大統領、ブッシュ大統領、そしてこれら三か国において外交の鍵（キー）を握る担当者たちに手渡された。

本書の著者たちは、このプロジェクト研究遂行の期間中、そして報告書草案が右の人々に手渡された後の時期において、これら三か国の外交担当者たちと面会し、研究の主旨およびレポートの骨子を直接説明する努力も行なった。

このプロジェクトにおけるわれわれの目的は、日・ロ二国関係の完全正常化を妨害している障害物を、可能ならば第三者である米国の援助も得て、克服するための一連のシナリオを提示することにある。三人の共同執筆者は、日・米・ロ三か国それぞれにおける外交政策決定機関との間に多少の接触をもっており、かつそれぞれの政府見解をも真剣に検討する一方において、それらによって

拘束されないように努めた。

われわれは、あくまで独立した学者の視点からこの複雑な問題を眺め、事実関係を再検討し、共同で分析を行ない、関連政府機関すべてにとって有益な結論を見出すことを望んだ。実際、この研究遂行の過程および最終報告書の両方において、われわれは、日・米・ロ三か国において関心をもつ人々や集団に向かい、これまで以上の創造性と断固たる態度をもつようになって欲しいとの挑戦的な勧告を行なっている。

本報告書が、このような種類のものとしては最初の試みであることを確信している。つまり、これら三大国の過去の歴史において、日・米・ロ三か国の独立した学者たちがこの問題に関し共同報告書を作成するために協力したことは、かつて一度も前例がなかった。そこで、われわれはますます一種の責任感をもってこの研究にとりかかった。

われわれは、まず準備作業として、過去三世紀にわたるこれら三か国の歴史について、日・露・英の三か国の言語で書かれた主要な文献のすべてに目を通した（われわれは、このような文献を収集するだけでなく、それらを他の研究者にも利用できるようにしている）。われわれは、北方領土問題に関する三か国の政府の公式声明について、丹念に研究した。これら三か国の官僚たちの見解も問い質した。われわれは、三か国の日・ロ専門家たちによって提出された十数篇のペーパーにも目を通した。われわれは、三か国における一〇〇名以上にも及ぶ学者、元官僚、実業界の人々から、この問題に関するアドバイスを得ることができ、それらはすべて大変有益だった。本プロジェクトの結果は、英語で一冊ないし数冊の書物として近く出版される予定となっている。

エリツィン訪日延期

一九九二年九月、エリツィン・ロシア大統領は、北方領土紛争に関連する国内問題、とくにこの紛争自体を解決するには、準備不足であることを悟った。その結果、同大統領は、失敗に終わりそうに思える訪日を延期し、後日準備が整った時に改めて訪日を行なうこととした。

われわれは、正直いってエリツィン訪日延期決定に失望した。とはいえ、これで万事窮したとは考えない。延期決定がなされた一九九二年九月以前の段階でわれわれが三政府首脳に提言した勧告の中心ポイントは、今日も依然として有効であると考えている。したがって、われわれは本報告書のオリジナル版をまったく修正する必要を感じなかった。変更したのは、エリツィン訪日延期決定という新事実を踏まえての日付けや時制（テンス）の訂正、およびこの報告書草案を読んだ個人から寄せられた反応を二、三とり入れただけに過ぎない。

研究の進め方

一研究者兼一市民として、われわれは、日・ロ両国が現在陥っている袋小路から抜け出すことが日・米・ロ三か国の共通利益であり、北方領土問題に関する理解を深めることこそが問題を満足ゆく結末に導くと信じ、今後もさらに研究を続けてゆくつもりである。われわれは、北方領土問題に関する自分たちの日・米・ロ三か国共同研究の試みがきわめてチャレンジング（挑戦的）なものだったと考えている。とくに東京、ボストン、モスクワの間の時差、そして日・露・英の三か国の言語を用いて作業することに伴った諸困難にもかかわらず、そうだったと思う。換言すれば、この共同研究から得られたプラスは、そのために投じられたコストをはるかに上回った。

謝辞

われわれは、われわれと意見を異にする時ですらも快くインタビューに応じてくれた日・米・ロ三か国の政府官僚たちの寛大さに感謝する。また、同じくこれら三か国の日・ロ関係専門家たちから寄せられた種々の意見は、実に有益だった。このような総計一〇〇余名に及ぶ学者および官僚の忠告をわれわれは真剣に受けとめ、本報告書を準備するにあたって参考にした。これらすべての方々に対して深謝する。

この日・米・ロ共同研究は、ハーバード大学ジョン・F・ケネディ政治スクールの「民主制強化プロジェクト」の一環として行なわれた。同プロジェクトは、ニューヨークのカーネギー財団およびカリフォルニアのアン&ゴードン・ゲティー財団によって創設され、旧ソ連邦のロシアおよびその他の共和国に現在おこりつつある三つの大きな変化を分析し、支持することを目的としている。すなわち、民主主義の持続、自由市場経済、建設的な国際関係の三つである。本特別研究および本報告書に対する援助は、日本の笹川平和財団によって提供された。われわれは、これらの財団に対し、深謝の意を表する。

木村　汎

グラハム・T・アリソン

コンスタンチン・O・サルキソフ

本書は、笹川平和財団が助成したハーバード大学ケネディスクールの「北太平洋地域に関する日ロ米共同研究」の報告書に、同プロジェクトのコーディネーターの一人である木村汎教授が一般読者向けに手を加えたものである。

日・米・ロ　新時代へのシナリオ—目次

序文 i

このプロジェクトの趣旨と特徴／エリツィン訪日延期／研究の進め方／謝辞

第1部　日・ロ関係正常化への道

要約 5

われわれの結論と提言……5

その他の結論と提言……7

複雑な歴史的経緯／恐るべき障害物／ロシアのより重要な国益の達成が可能となる／ロシアが入手しうる利益／日本のより重要な国益が達成可能／米国のより重要な国益が達成可能／日・米・ロがいまなすべきこと／「二プラス・アルファ」方式の勧め／エリツィン訪日延期の教訓／当分の間、解決よりも停滞

第1章　はじめに―何が、一体問題なのか―　19

冷戦終焉にとり残された日・ロ関係……19

障害は、四つの小さな島

北方領土問題に対する新しいアプローチの必要……21

なぜ、日・米・ロ共同研究プロジェクトを開始したのか……23

米国ファクターの重要性／われわれの狙い

本研究の結論……26

第2章　背景、利害、障害　29

歴史的経緯……29

利害……32

ロシアにとってのプラス／日本にとってのプラス／米国にとってのプラス

紛争解決と完全正常化にとっての障害―設問と簡単な答―……36

心理的障害／政治的障害／軍事戦略的障害／経済的障害／国際的障害

障害の検討……41
むしろ国内政治上の障害
根拠のない危惧や懸念……43
国際法／安全保障／経済／島民／主権／国民投票／日・ロ関係に与える意味／パンドラの箱

第3章　国際法上の側面　53

北方領土に関する条約や協定……54
われわれの結論……59

第4章　類似している世界の領土問題　61

古くて新しい問題……61
解決の三条件／沖縄返還との異同
教訓……64

第5章　日・米・ロ三極関係の完全正常化のためのシナリオ　67

なぜ、完全正常化を目指すのか……67
三つの基本的シナリオ―要約……70
Aシナリオ―領土紛争それ自体の解決……72
　シナリオAの問題点
Bシナリオ―より大きな目標を達成する手段として……76
　シナリオBの問題点
Cシナリオ―領土紛争を、二国間の関係を超える条件下で解決……80
　シナリオCの問題点
結論……83
その他のシナリオ……84

第6章　アジア太平洋地域における日・米・ロ三極関係の展望　87

日・米・ロ三極パートナーシップの出現……88
低迷を続ける不完全な三極関係……91
その他の可能性……93

第7章　日・米・ロの三政府がいまとるべき行動　95
ロシア……95
日本……98
米国……100
第8章　診断―なぜ、領土問題解決よりも停滞続行が起こりそうなのか―　103
ロシアの国内状況……104
日本の消極性……106
慎重な米国……108
われわれの提言……109

第2部　ロシア側提出の参考論文

「北方領土」問題の歴史的背景　ワシリー・サプリン　113

領土問題をもたらした歴史的要素／戦後クリール列島が未解決の領土問題として残された理由／冷戦の終結とソ連邦の崩壊／可能な解決策／現在ある法的文書に定められた義務にもとづく解決法

「北方領土」問題解決のための法律的解釈　セルゲイ・プンジン　123

シナリオ1―法律的解決法―／シナリオ2―政治的解決法―／シナリオ3―政治的・法律的解決法―／領土問題の解決の先例／ロシア国内法／国際司法裁判所／問題の国際化／さまざまな主権の形式／解決がその他地域に与える法律的影響

「北方領土」の現況　オレグ・ボンダレンコ　135

「北方領土」の島民の政治的、社会的特質／「北方領土」の島民の日本および統合に対する態度／クリール列島以外の状況：統合への態度

／「北方領土」の経済状態／付録―数字に見る「北方領土」

「北方領土」の軍事・戦略的価値の減少　ゲーリー・バテーニン　153

新しい状況／前向きの提案／軍事・戦略的側面／結論

ロシア国内状況と「北方領土」　アレクセイ・キーヴァ　165

国民世論をどう変えるか　ウラジーミル・エリョーミン　180

ターゲットとする個人あるいはグループ／行動方針／目標グループ／教育用資料の種類と世論の啓発／立場や態度の調査／幅広いコンセンサスを創るための土台

日・ロ関係正常化とアジア　エフゲニー・バジャーノフ　200

中国／台湾／韓国／北朝鮮／インドシナ諸国：ベトナム、ラオス、カンボジア／ASEAN諸国／オーストラリア／インド／ドイツ／包括的結論と提言

付録　領土問題基本歴史文書集 213

本研究プロジェクト参加者一覧 260

解説 263

領土問題を解決する道は存在する／ゼロ・サムからノン・ゼロ・サム・ゲームへ／われわれの提言が与えた影響

刊行にあたって…… 274